

# 「天のつぶ」献穀者 木野内ご夫妻が御会釀に参加

## — 泉崎村産米が皇居の宮中行事に —



### ◆本村産の米が皇居に献穀されました

このたび、泉崎村で栽培されたお米が、11月に皇居で執り行われた宮中行事「新嘗祭（にいなめさい）」において、献穀米として奉納されました。

この栄えある献穀を担ったのは、

株式会社きのうちライスファーム 代表取締役 木野内悟（きのうち さとる）さん（54歳）と妻の和子（かずこ）さんです。

奉納されたお米は、福島県のブランド米「天のつぶ」。

村の豊かな自然と清らかな水、そして代々受け継がれてきた稲作の技を生かし、厳しい管理のもとで大切に育てられました。

### ◆10月21日（火）献穀者として御会釀に参加

御会釀は、天皇・皇后両陛下が新嘗祭の献穀者に対してお言葉をお掛けになる、由緒ある行事です。この奉納は、明治25年（1892年）から続く「宮中献穀事業」の一環として行われており、全国の都道府県から選ばれた限られた農家のみが担う、大変名誉あるものです。本村の米づくりと品質の高さが認められた証でもあります。

木野内さんは、「身に余る光栄であり、村や地域を代表する思いで参加させていただきます。これまで支えてくださった皆さんに心から感謝しています」と話しています。

### ◆泉崎村からお祝いの言葉

泉崎村一同、木野内さんのご尽力と、この名誉ある献穀を心よりお祝い申し上げます。

今後も泉崎村産米のさらなる発展と、木野内さんのご活躍を期待しています。

### ◆新嘗祭（にいなめさい）とは

新嘗祭は、毎年11月23日（勤労感謝の日）に皇居で行われる、最も重要な宮中行事の1つです。天皇陛下が神前に新穀（その年に収穫された米など）をお供えし、五穀豊穣と収穫への感謝をお祈りになります。古来より続く日本の伝統行事であり、農耕文化を象徴する儀式です。